

高畠高生の活躍

高畠町民憲章作文コンクール高等学校の部で最優秀賞を受賞した本校2年の佐藤由衣さんの文章が、高畠町町民憲章推進協議会会報に紹介されました。



山形県立高畠高等学校
二年 佐藤由衣

最優秀賞

高等学校の部

「町の空を守る」(ついで)

高畠町は空が良く見える。燦々とした太陽からまちを囲むように連なる山々にかけて広がる高畠の空は、時間や季節ごとに様々な色を見せてくれる。水引きをした田んぼに映る青空や、揺れる金色の稲穂を包む秋晴れは何度見ても美しい。夏が始まると日が長くなるため、学校

を出る頃には東側の青と西側のオレンジを同時に見ることが出来る。その間の長い道のりが私の通学路だ。商店街を抜け、二

つ目の信号を渡ればいつもの間にか空には薄い桃色のゲラデーシヨンに変わっている。そんな私にとって当たり前にある空が、どんなに特別なものであるかをここ数年で改めて実感した。

天気や気象が違えど世界中に同じ空が広がっていた。しかし、人間の手でそれらは歪められつつある。現在、北の空には軍機が飛び交い、隣の空からはミサイルが飛んでくるようになった。雲ひとつ無い青い空も当たり前ではないことを知った。

ウクライナは、ロシアの軍事侵攻によって、いつ、どこから攻撃を受けるかもわからない戦場にされている。そんな状況に置かれた人にとつての空は、きつとのんびり見上げてほっとするようなものではないのだろう。

一方で、私達の空も近年危険なものに侵されつつある。北朝鮮の飛翔体発射実験によって、学校でも対ミサイル用の避難訓練が実施された。当たり前前に存在していた青い景色が他国の手によって壊されようとしている。

だからこそ私は、心安らぐ高畠の空を守っていきたく強く思う。五十年後、百年後の高畠町民が安心して見上げられるような空を。そのために私たちにできるのは新聞やテレビなどを通して同じ空の下で何が起きているのかを知るこ



となのだと思う。

先日、インターシップで高畠町役場に行き、町全体のことを学んだ。地元にはまだまだ知られていない魅力があることを知り、同時に空き家の多さや少子高齢化についてなど、解決していかなければならない課題があることも分かった。

インターシップでの体験を通して、高畠町の武器に町や人並みの良さがあることに気づけた。町の人たちは、やる気や活気に満ち溢れている。高畠町をより良くしていくこうとする人たちが、様々な活動に取り組んでいることを知り、もつとこの町が好きになったし、自分も町のためにやれることをやりたいと思った。

「知は力なり」という言葉もあるように、知ることには大きな意味があるのだと思う。だからこそ、他人事としてではなく自分事として、目まぐるしく回る世の中を見据え、自分の考えを持つ必要がある。選択は行動につながって、行動は結果へつながっていく。そして、結果の積み重ねが、私たちの未来へとつながる。私たちの未来をより良いものに変えていくことは



幅広い選択肢を作ることから始まっていくのだと思う。そのため私の一歩目は、町を包む広い空に気付くことだった。